

平成22年4月4日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530138

研究課題名（和文） 北欧冷戦史研究—基地・非核政策の変容

研究課題名（英文） Gold War History in the Nordic Countries— Base and Nonnuclear Politics

研究代表者 池上 佳助（IKEGAMI KEISUKE）
東海大学文学部准教授

研究者番号：40307294

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国際関係史・冷戦史・北欧地域研究・基地問題・非核政策

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、北欧と冷戦の関わりを北極圏地域という地理空間の中で捉え直し、右地域が米ソ間の冷戦構造にどのように組み込まれ、変容してきたのかを解明することにある。具体的な研究対象は1947年から53年のいわば冷戦が「本格化」（トルーマン宣言）、「制度化」（NATO創設）していく時期に、ノルウェー、デンマーク、アイスランドの外交・安全保障政策、とりわけその基地・非核政策がどのように形成されてきたのかを実証的に考察する。

(2) 本研究はマルチアーカイバルなアプローチによる分析手法を採用、このため年度毎に米国、アイスランド、ノルウェー、デンマークの国立公文書館で外交文書等の一次史料の調査を実施する。内容的には大きく二段階に分け、前半の2年間でアイスランド・グリーンランドに対する米軍基地設置を主眼とする「防衛協定」、後半の2年間はノルウェー、デンマークのNATO加盟交渉とソ連の反応、対ソ信頼醸成措置としての基地・非核政策の形成について考察する。

2. 研究の進捗状況

(1) 史料調査については、07年度にアイスランド国立公文書館で、米軍の駐留継続、基地の長期貸与に関する協定から「米・アイスランド防衛協定」に関する外務省文書、08年度には米国立公文書館で、上記および「米・グリーンランド防衛協定」に関する国務省・国防総省文書、09年度にはノルウェーおよびデンマークの国立公文書館でNATO加盟問題、ソ連の反応、基地政策に関する外務省文書を調査し、必要文書の写しを入手す

ることが出来た。しかしながら、米軍の核持ち込みに関する問題については、既に公開されている文書、北欧での先行研究論文以外見出すことは出来なかった。

(2) 上記史料の読解・分析に関しては、07、08年度分についてはほぼ読了し、研究ノートを作成したが、09年度分については調査時期が10年3月ということもあり、現時点で未読の状態である。

3. 現在までの達成度

達成度の区分は③のやや遅れているである。当初計画では09年度中にアイスランドの米軍基地に関する論文を学会誌等に投稿する予定であったが、アイスランドで購入した米国政府との交渉に深く関与した当時の首相、外相、外務省高官の回想録、日記、伝記等の文献10冊ほどが送付を依頼した古書店のミスで紛失、一部を除いて未だ入手できていない。これらの文献は公文書史料を補う、実証研究には不可欠な資料であり、是非とも入手すべく督促しているが、古書店でも再入荷できていない。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度である10年度では、ノルウェーの基地政策とソ連の対北極圏政策に関して、09年度に入手したノルウェー側外交文書と公刊済のロシア外務省史料と照合しながら分析し、論文として発表したいと考えている。アイスランドの米軍基地問題に関する論文について骨格はできており、上記3.の文献の入手状況をみながら最終校にまとめたい。なお、北欧の非核政策に関して、冷戦期に米軍は北欧に核を持ち込んでいたのか、核の密

約はあったのかとの検証は、現在のところ右事実を示す史料を発見できておらず、今後の研究課題としたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

(1) 池上佳助「北欧における戦争と平和」
北欧研究会 2008年11月4日 東海大学湘南校舎

(2) 池上佳助「ノルウェー基地政策の形成」
北欧研究会 2009年11月1日 東海大学札幌校舎